

柳北小学校児童が「森林体験学習」で竹のおもちゃづくりを実施

令和5年10月5日(木曜日)に柳井市立柳北小学校において、1、2年生の児童19名を対象とした森林体験学習が実施されました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「柳井ふれあい森の会」(会長:山重 義則)が行ったものです。

はじめに、山重会長から森林の話聞いた後、各学年2班に分かれ、会員の指導を受けながら、竹を使ったおもちゃづくりを実施しました。

1年生は竹のけん玉をつくりました。竹をノコギリで切って、持ち手とけん玉(竹の輪)を入れる場所をナタで切ります。ドリルで空けた穴にひもを通して、持ち手とけん玉を結んだら完成です。初めは、ノコギリで竹がうまく切れずに大変そうでしたが、徐々にコツをつかみ上手に切ることができました。実際に竹のけん玉で遊んでみると、なかなか竹の輪を入れるのは難しく、入った時には思わず「ヤッター」と声があがりました。

一方、2年生は竹の水鉄砲をつくりました。作る際に気を付けることは、竹筒の噴出口以外から水が漏れないようにすることで、生徒達は竹に巻いた隙間材の厚みを調整しながら組み立てていました。完成すると早速グラウンドで試し打ちです。最初は上手く水が出ない子供も再度調整をし、勢いよく水を飛ばせるようになりました。

最後には、竹とんぼのおみやげもあり、皆で楽しく遊んでいました。

柳井ふれあい森の会では、今後も森林資源を活かして、地域に根ざした取組を行うこととしています。



一生懸命ノコギリを挽きます



みんなで竹のけん玉で遊びます